

## 世界大会—ニューヨークでの発言

### 人類と地球のために、核兵器廃絶の圧倒的な世界世論をつくり上げよう

日本原水協代表理事 高草木博

報告の機会に感謝します。私の後ろには被爆詩人峠三吉の詩「にんげんをかえせ」を刺しゅうしたタペストリーがあります。今日のオンライン会議のことを聞いた京都で活動する女性から、「あなたの後ろにこれを掛け、日本の草の根の声を伝えてほしい」と頼まれました。

75年前の広島では14万、長崎では7万の人々の命が奪われ、さらに多くが放射線を浴び、被爆者となりました。いま新型コロナウイルスの犠牲者は世界で14万人を超えましたが、1発の原爆の破壊力はそれに匹敵するものでした。彼の詩は、原爆を二度と許さぬその気持ちを「にんげんをかえせ」の言葉で表しました。

核保有国は14000発の核兵器を持ち、それを「核戦争を防ぐ」ものとか、「安全の保証」だとか言って誤魔化しながら、現在の危機のさなかにもなお新たな核兵器を開発し、既存の核兵器を「近代化」の名で強化し続けています。

国連のグテーレス事務総長は、新型コロナウイルス（COVID-19）の世界的蔓延の中で、先日、世界のすべての紛争当事者にただちに戦闘を止め、世界を荒廃させている疾病とたたかうようよびかけました。

私たちが同じように、核保有国、とりわけ国連安保理の常任理事を務める五つの核保有国や核に依存する国々の政府に、国際紛争での武力行使や威嚇をやめ、「原子兵器、大量破壊兵器を各国の軍備から一掃する」と誓った国連第1号決議を実行し、そのすべての資源を人類と地球を守るために、平和、気候変動の停止、格差の解消、福祉や医療、教育の充実のために使うよう要求しましょう。

今日4月25日、本来なら私たちは1000人の日本の草の根の活動の代表団としてこの世界大会に合流し、明日はさらに多くの内外の参加者とともに、被爆者がよびかけた核兵器禁止・廃絶の条約を求める署名を国連とNPT再検討会議に提出する予定でした。それは中止となりました。

しかし、そのために私たちがおこなった運動は、決して無駄にはなっていません。私たちは、被爆者のまわりにさまざまな日本の団体を結集し、連絡会をつくり、集まった署名は1千万を超えました。市民社会は共同し、この署名に加わった自治体首長は全国1700余の市町村の70%を超えました。住民の要求により、日本政府に核兵器禁止条約の調印・批准を求める意見書を決議した自治体の数は448にのぼっています。今日の会議の最後に日本被団協の田中熙巳代表委員がその報告をするので楽しみにしてください。

現在のCOVID-19の蔓延で、この努力はいまペースを落としています。毎年10万の人がリレーして全国で歩く原水爆禁止国民平和大行進も多くの所で中止され、あるいはシンボリックな行動に切り替えられています。しかし、私たちはこの試練を逆に、新たなコミュニケーションの手段も伝統的な手段も駆使し、世論に働きかける新たな挑戦の時期にしたいと思っています。

大国がコロナ問題でも対立をくり返し、国連安保理で共同声明さえ出せなかったなかで、人々は、自国の利益や自国の安全優先では問題を解決できないこと、世界は団結し、行動しなければならないことを学んでいます。核兵器廃絶や平和の運動が、環境の運動や社会的経済的正義を求める運動と連帯を広げています。この大会もそのひとつです。

人々が団結してたたかい、新型コロナが収束すれば、来年4月には、NPT再検討会議も開かれます。そこに向けて、私たちは禁止条約を支持する国だけではなく、核兵器を持ち、あるいはそれに依存する国々で、NPT第6条や「自国の核兵器の完全廃絶」を含むこれまでの合意の実行を求め、変化を生み出さなければなりません。私たちも唯一の戦争被爆国であり、戦争と武力の放棄を憲法の原則とする日本を、核兵器禁止条約発効の先頭に立つ国に変えようと決意しています。

それは可能であり、昨年暮れのNHKの世論調査でも、核兵器禁止条約への日本の加入を呼びかけたローマ教皇のよびかけに賛成する世論は65.9%に上りました。私たちは、それを現実に移すために行動します。

今年8月、私たちは広島・長崎の被爆75年を迎えます。被爆者も高齢化するいま、核戦争阻止、核兵器全面禁止・廃絶、被爆者援護・連帯を掲げる私たち原水爆禁止運動のイニシアチブは極めて重要です。だから私たちは、現在の新型コロナの影響の下でも、運動の火を燃やし、広げるため、8月6日と9日、原水爆禁止2020年世界大会をオンライン会議として開催することを決定しました。そこでは、人類と地球を救うすべての運動と連帯し、核兵器のない平和で公正な世界を創ることを願う内外の人たちの声と行動を結集します。草の根からも政府や自治体の代表にも発言してもらおうと思っています。

また、広島と長崎を起点に、核兵器の廃絶を共通の目標に、被爆者がよびかける核兵器禁止・廃絶の署名を共通の行動形態に、地球の自転に沿って、もっとも創意的な草の根の行動で世界をつなぐ国際共同行動「平和の波」も呼びかけようと思います。そのころ新型コロナウイルスの影響が静まっていることを願います。しかし、与えられたどんな条件の下でも、私たちはそれぞれの国、地域で、実情に合った行動を、ウェブ上での交流も含めて考えることができると思います。

2015年4月、ハマースホルド広場での署名提出の際、当時のNPT会議議長のフェルーキ大使は、私たちに対して、核兵器をなくすために一般の人々を死活的に重要な世界的プロセスに参加させることの重要性を強調しました。その通りです。核兵器の廃絶も、気候変動の停止も、おそらく新型コロナウイルス克服の努力も、勝利を決定づけるのは、私たち主権者の選択と行動であることを確認し、粘り強く、創意的に行動を続けましょう。